

安全データシート

(JIS-Z7253)

(GHS-改訂4版)

初回作成日:2011年03月09日

改定日:2019年11月07日, 2023年11月1日

2023年4月1日施行の化管法の対象物質は含有していません。

1 製品及び会社情報

製品名 New GRPオイル添加剤 807 α
用途: 既成潤滑オイルへの添加剤
用法: 既成潤滑オイルの使用量に対し状況に応じて3~10%相当量を添加する。
標準量としては5~8%程度。

会社

メーカー ジーアールピー株式会社

販売代理店 ミユキシステムサービス株式会社

〒921-8062 石川県金沢市新保本4丁目4

電話 076-240-3439 FAX 076-240-3494

fukumoto@miyukissnet.co.jp

緊急連絡先: 営業技術担当 月曜日~金曜日 9時~17時



SDS整理番号 190301/2

2 危険有害性情報

GHS分類

物理化学的危険性 区分外

健康有害性情報

急性毒性 (経口)	区分外 (ラット LD50 経口 15000mg/Kg 以上)
急性毒性 (経皮)	区分外 (ラビット LD50 経皮 6000mg/Kg 以上)
急性毒性 (吸入-ガス)	非該当
急性毒性 (吸入-蒸気)	区分外 (ラットミスト吸入 218mg/L) TWA 基準 5mg/m3
急性毒性 (吸入-粉塵ミスト)	区分外
皮膚感作性	区分外
眼に対する重篤な損傷性または 眼刺激性	区分2B (表示マーク: なし、喚起語: 警告) 危険有害性情報: (H320) 眼刺激

呼吸器感作性 区分外

呼吸器有害性 分類外

発がん性 区分外

生殖毒性 区分外

特定標的臓器毒性(単回暴露) 区分外 急性試験による特定臓器への単回暴露毒性は認められていない。(ECHA 基準)

特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分2 (表示マーク:「健康有害性」喚起語:警告) 危険有害性情報:(H373)長期にわたるまたは反復暴露は臓器損傷の恐れ
環境有害性	
水性環境有害性(急性)	急性 区分外
水性環境有害性(長期間)	慢性 区分4 危険有害性情報: 注意喚起語「なし」 (413)長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ
オゾン層への有害性	分類できない
GHSラベル要素:	
シンボル:	表示マーク:「健康有害性」、
注意喚起語:	「警告」
危険有害性情報:	* 眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性 区分2B 注意喚起語「警告」(H320)眼刺激 * 特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分2 注意喚起語「警告」 (H373)長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害のおそれ * 水生環境有害性長期間分類 区分4 注意喚起語「なし」 (413)長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ
その他の有害性情報	
主な兆候:	飲み込むと下痢、嘔吐をする場合がある。

3 組成・成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	合成石油系炭化水素及び潤滑油諸添加剤
別名	潤滑油へのオイル添加剤
化学特性	企業秘密により公表不可
成分及び濃度	非規制対象成分は非公開
官報公示整理番号	
GHS危険有害成分情報	有用情報なし
労働安全衛生法	57条の2表示・通知対象(H28法改正)No.169鉱油15% 含有
化審法	非該当
化管法	非該当

4 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、気分が悪い場合は身体を保温して安静にし、必要であれば医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	石鹸を用いて温水で良く洗う。

目に入った場合
飲み込んだ場合
最も重要な徴候及び症状

清浄な温水で良く洗い、刺激性の残る場合は医師に相談する。
無理に吐かせず温水で口を良くすすいでから医師に相談する。
飲み込んだ場合は下痢や嘔吐をする場合がある。
目に入った場合は炎症を起こす場合がある。
ミストを吸入すると気分が悪くなる場合がある。

応急措置をする者の保護
医師に対する特別注意

特定事項なし
特定事項なし

5 火災時の措置

使用可能消火剤

泡沫又は粉末消火剤、又は二酸化炭素、炭酸ガス消火剤。
大規模火災には泡沫消火剤を用いる。

使用禁止消火剤

水を放射する消火器は火災を拡大させる危険がある。

火災時の特有危険有害性

燃焼すると酸化窒素性ガス、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が発生するので煙を吸わないこと。

特定の消火方法

火元近くの燃焼源を取り除き付近を散水によって冷却すること。
消火作業は風上から行い耐熱防具や呼吸保護具などを着用のこと
耐熱防具や呼吸保護具などを着用のこと。

消火を行う者の保護

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項

作業の際に消火用保護具並びに保護眼鏡等を着用する。
消火器を付近に用意すること。

環境に対する注意事項

漏出物が河川、下水等に排出されないように処置すること。

除去方法

付近の可燃物を取り除き、少量の場合は土砂、ウエス等で吸収させ回収する。大量の場合は漏洩液を土砂などで隔離し空き容器などに回収する。海上にて漏出の場合はオイルフェンスを用いて隔離、吸収マット等にて吸い取る。

二次災害の防止策

更なる事故の防止、及び拡大防止のため速やかに関係機関に連絡する。同時に火災防止のため付近の着火源や可燃物を取り除く。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い技術的対策

炎、火花または高温体との接触を避ける。
静電対策を適切に講じ着衣、靴など導電性の物を用いる。
作業は換気の良いところで行う。
容器からの取り出しはポンプを使い、口からのサイフォンなどはやらないこと。
作業には万一のため保護具を用いる事。
ミストが発生する場合は呼吸器保護具を着用の事。
容器は必ず密閉すること。

局所換気・全体換気

通常は特別に換気は必要ないが蒸気化する環境では蒸気は滞留しやすいので換気及び火気には注意することが必要である。

注意事項

室温で作業・保管をすること。不必要な加熱はしないこと。

作業中に異物、水分等の混入をさせないこと。
ハロゲン類、強酸物質、などとの接触を避ける事

保管

適切な技術対策
適切な保管条件

使用する電気器具は防爆仕様とし接地を忘れないこと。
直射日光を避け換気の良い場所を選ぶこと。
消防法による危険物であることを明示し法規制に基づき保管する事
火気、漏電、静電気蓄積などの可能性を避けた場所に保管すること
長期保管には金属容器を用いること。

安全な容器包装材料

8 暴露防止及び保護措置

設備対策

取扱作業は換気装置が設置されている涼しい場所にて行う。
取扱作業近辺及び保管場所近辺から火気を取り除くこと。
取扱作業場近辺に手指の洗浄のための設備を設けることが望ましい。

管理濃度

許容管理濃度(ミスト)

ACGIH(米国産業衛生学会)
TWA時間加重平均5mg/m³
STEL短時間暴露限界10mg/m³

保護具

呼吸器用保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚及び身体の保護具

通常は不必要。必要な場合は有機ガス用防毒マスクを使用。
長期に亘る反復接触の場合は耐油性保護手袋を使用。
飛沫が飛ぶ場合は普通眼鏡、又は保護眼鏡を用いる。
長期に亘る反復接触の場合は耐油性長袖作業服などを着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観

液体

臭気

微臭

pH

該当しない

融点・凝固点

凝固点-25℃以下

融点データなし

沸点250℃以上

引火点

280~300℃(COC法)

自然発火点

データなし

燃焼・爆発範囲

下限3%(推定値) 上限10%wt(推定値)

蒸気圧

0.02mmHg以下(20℃)

比重

0.992~1.05g/cm³

溶解性

水に対する溶解性:不溶解

オクタノール・水分配係数

データなし

分解温度

データなし

1 0 安定性及び反応性

安定性

安定物質

危険有害反応可能性

強酸化剤及び発火物質との接触

避けるべき条件

強酸化物質、ハロゲン類、火気との接触を避ける

1 1 有害性情報

急性毒性

LD50ラット経口5Kg/Kg以上

皮膚腐食・刺激性

長期に亘る反復の接触は炎症を起こす場合がある

眼性損傷・刺激性

眼に入った場合は炎症を起こす場合がある

呼吸器感受性・皮膚感受性

ACGIHにて規定外

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

当製品使用鉱油はNTP(ARC)及びOSHAにては分類3に
属し勧告、発がん性物質ではない。

EUでは本製品に使用している鉱油は発がん性物質としての分類は
不要と評価されている。

(NTP:National Toxicology Program International
Agency for Research on Cancer)

(OSHA:Occupational Safety and Health Administration)

生殖毒性

定量データなし

特定標的臓器毒性(単回暴露)

ECHA基準による急性単回暴露試験において毒性は
認められていない。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

長期にわたる反復暴露は臓器に有害なおそれがある。

吸引性呼吸器有害性

ミストなどが発生した場合はそれを吸引しないようにすること。

その他の注意事項

飲み込むと嘔吐や下痢を起こすことがある。

目に入ると炎症を起こす可能性がある。

ミストを吸うと気分が悪くなることがある。

1 2 環境影響情報

生態毒性

AGAT幼魚テスト合格生存率100%

残留性・分解性

生分解はしない。

生体蓄積性定量

データなし

土壤中の移動性

移動性なし

その他の有害影響

特になし

1 3 廃棄上の注意

廃油は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。

環境への排出、投棄などをしてはならない。

簡易 燃焼炉による 焼却 処理は有害ガス排出など の可能性 があり推奨できない。

1 4 輸送上の注意

国際規制

国連分類	該当せず
国連番号	該当せず
輸送関連法	IMDG(海上輸送) IATA(航空輸送)
規制	海上輸送・航空輸送共に非危険物扱い (DOT及びTDG規制非該当) DOT: Department of Transport TDG: Transport of Dangerous Goods

国内規制

消防法	危険物第4類第3石油類危険等級Ⅲ
毒劇物取締法	非該当
船舶安全法	非危険物(バラ積み法)
航空法	非危険物
容器	危険物の規制に関する規則別表3の2に準ずること。
容器表示	1. 品名: New GRPオイル添加剤807 α 2. 第4類第3石油類危険等級Ⅲ 3. 数量(リッター) 4. 火気厳禁
積載方法	消防法に則り適切に輸送すること 発火性物質、高圧ガスなどと混載しないこと。

1 5 適用法令

化審法	該当せず
化管法	該当せず
消防法	危険物 第4類第3石油類 危険等級Ⅲ
労働安全衛生法	57条の2表示・通知対象物質(H28法改正)鉱油
海洋汚染防止法	油分排出規制
水質汚濁防止法	油分排出規制
下水道法	鉱油類排出規制

1 6 参考資料

許容濃度の勧告(日本産業衛生学会)
ACGIH2001及び2004
IARC1984及び1987
GHS対応ガイドライン(改定4版)日本規格協会
GHSの挑戦(化学工業日報社)
GHS対応MSDS作成指針改定版(日本化学工業会)
EC委員会指令67/548/EEC危険な物質リスト
化学物質等法規制便覧2011年版(化学工業日報社)

*** 製品安全データシート(MSDS又はSDS)は化学製品について危険有害性に注意し取り扱いを安全にするために取り扱い事業者に参加情報として供与されるものがあります。取り扱い事業者はこれらを参考として自らの責務において適切な取り扱いをすることが必要であります***